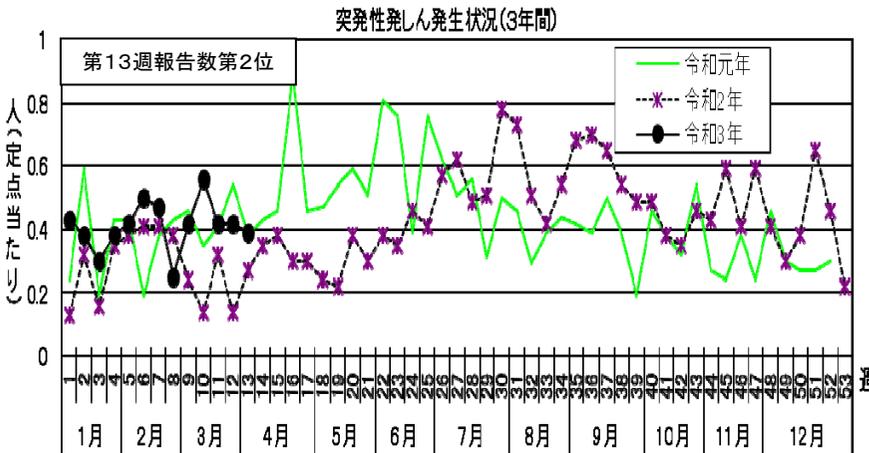
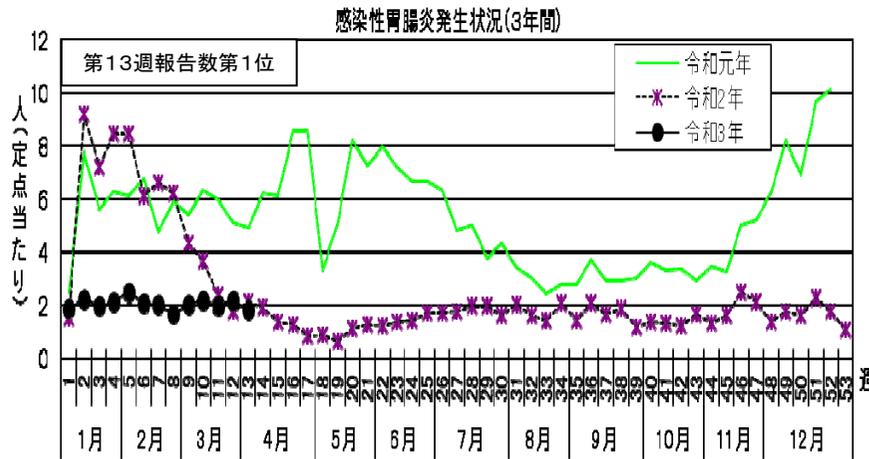


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年3月29日（月）～令和3年4月4日（日）〔令和3年第13週〕の感染症発生状況

第13週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)突発性発しん 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.83人と前週（2.19人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.39人と前週（0.42人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.36人と前週（0.47人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



知っていますか？～ボツリヌス症～

令和3年第13週（3月29日～4月4日）に、川崎市内でボツリヌス症の報告が1件ありました。ボツリヌス症は全国的にも稀な疾患で、市内では過去15年間で初めての発生となりました。

ボツリヌス症は、ボツリヌス菌等が産生するボツリヌス毒素によって筋肉の麻痺を引き起こす疾患です。ボツリヌス菌は、土壌等の環境中に広く分布しており、熱や乾燥等に強い芽胞を形成するため、汚染された食材を加熱調理した食品等に生存して増殖します。ボツリヌス症は、食餌性ボツリヌス症、乳児ボツリヌス症、創傷ボツリヌス症、成人腸管定着ボツリヌス症に分類されます。

食餌性ボツリヌス症とは？

食餌性ボツリヌス症は、ボツリヌス毒素に汚染された食材を使った自家製の発酵食品や真空調理食品、缶詰等の保存食品を摂取することにより発症します。

食品のパックが膨らんでいる場合や食品を開封した際に変なにおいがする場合は、絶対に食べない。

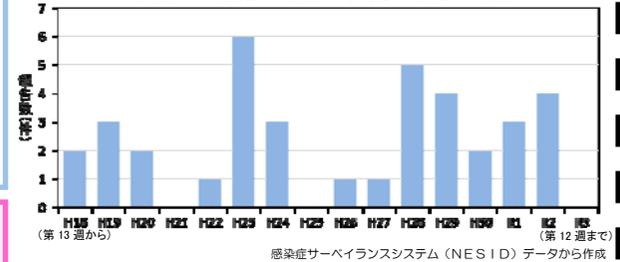
乳児ボツリヌス症とは？

乳児は腸内細菌の性状が成人と異なるため、乳児の腸内ではボツリヌス菌の芽胞が発芽・増殖しやすく、腸内に芽胞が入るとボツリヌス毒素が産生されて乳児ボツリヌス症を発症することがあります。

1歳未満の乳児にはハチミツを食べさせない。
 調乳用の水は一度煮沸し、冷ましたものを使う。



全国におけるボツリヌス症発生状況
 —平成18年第13週～令和3年第12週—



- ボツリヌス菌は酸素がない環境下で増殖し、毒素を産生します。
- ボツリヌス毒素は85℃5分の加熱により壊すことができますが、電子レンジでの加熱は有効ではありません。

